



地元作家が入選

描いたのは、「生命力」

上木原 健二さん / 白沢東町

白沢東町で有機農業の傍ら制作活動続ける上木原健二さん。国内外から集まった834点の作品の中から入選された作品のタイトルは「異質な他者どうしの化学反応」。その作品に込められた思いに迫ります。



上木原さんの入選作品

私の作品は、暗く不気味な印象を持たれることが多いですが、決してそれだけではなく、社会で生きていく中で、見えなくなってきた野性的な荒々しいほどの生命力を今回展示される私の絵から感じてもらえたら

——今回の入選作品「異質な他者どうしの化学反応」に込める思いは？

毎朝5時から3〜4時間有機農業で畑仕事をして、大根やそらめを育てています。仕事が終わったらアトリエで作品を描くのが一日のルーティーンです。制作時間は長い時で10時間以上で、気がついたら夜中になっていたこともあります。今は、家の近くの空き家を購入して、好きな音楽を聴きながら月に1枚を目標に制作しています。

——普段の制作活動について教えてください。

——作品を作るうえで大切にしていることは？

元々絵に興味があったわけではなく、20代前半ごろから歳を重ねるにつれて、自分の中の悲しみ、苦しみといった感情から抜け出したいと思った時、何か表現しなければと思ったのがきっかけです。写真や作曲など色々試してみましたが、どれもしっくり来ず、20代後半の時に最終的にたどり着いたのが油絵でした。

嬉しいと思っています。

——活動を始めたきっかけは？

悲しみや苦しみの中で、もう死んでしまいたいと思っている人が、自分の絵を見て、「もうしばらく生きてみようか」と思える、そんな絵が描ければと思っています。悲しくて下を向いている人が顔を上げた時、自分の絵を見て、少しでも元気になってくれたらと思って制作しています。

■上木原さんの入選作品も第4回枕崎国際芸術賞展で展示されます。ぜひ会場で作品をご覧ください。



ご来場の皆さんへ

高畠 依子 氏

(画家・東京藝術大学准教授)

第4回枕崎国際芸術賞展で初の女性審査員を務めた、高畠依子先生から、今回出品された若手アーティストの作品に対する印象と大賞作品を見て感じたことや、ご来場の皆さんへ向けたメッセージをいただきました。

また、福岡県出身の高畠先生は、幼少の頃、何度か枕崎市を訪れたことがあるとのことで、「枕崎との縁」についても話していただきました。

■はじめに

小学生の夏休みには、毎年、家族で鹿児島に旅行するのが我が家の恒例行事でした。当時は、福岡から鹿児島までの高速道路が途切れ途切れで、何十時間もかけてキャンプをしながら最終目的地の坊津を目指して旅をしていました。そんな道中で必ず立ち寄って市場でお刺身を食べていたのが枕崎でした。今回、枕崎国際芸術賞展の審査員にお声がけいただいた時には驚いたと同時に、枕崎とのご縁を感じました。

私は、「キャンバスと絵具。この二つで何ができるのか」という問いのもと制作をしてきました。絵画は布の上に絵具が乗っているだけのシンプルなものですが、絵画を作る新たな方法を探して制作を続けているように思います。

■若手アーティストの作品に対する印象

今回のU22やU18の応募作品は、力強い作品が多い印象でした。キッチンペーパーに油絵具を染み込ませて画面に貼り合わせて描画している「私たちは加害者にならないければ生きていけない」(2ページ優秀賞作品に掲載)や、坐禅のポーズの若い女性の体に今考えていることや頭の中のモヤモヤが細かい文字でぎっ

しり書かれている「子供なりの苦悩」、寒海にモリを持って飛び込んだ経験から描いた「やまあらしと白波」、散らかった記憶を整理して描いた「静物」、大胆な構図と光の効果を捉えた写実的な「Ornaments」など、どの作品も若いアーティストたちのリアルな感覚、今目の前に広がる風景を素直に表現されていました。

■大賞作品について

大賞の「無明い鹿児島」(2ページ大賞作品に掲載)は、知覧の特攻隊員の写真が背景に使用され、手前の枕崎を含む鹿児島の現在の街並みからのイメージは、過去の



▲静物 (U22賞)



▲子供なりの苦悩 (U18賞)

歴史に支えられているこの土地の今を感じさせてくれます。審査の際に知覧特攻平和会館を訪れ、隊員達の家族に宛てた手紙などを拝見し、今私たちが制作できる環境にあるのは過去の歴史があったからだと感じました。また、自然や食、歴史、工芸品などとの出会いも、さらに鑑賞体験を豊かにしてくれることと思います。

■ご来場の皆さんへ

枕崎の地に集まった、作り手の背景と鹿児島ならではのモチーフや素材を使用した豊かな作品に、ぜひ会いに来てください。



▲やまあらしと白波 (準U22賞)



▲Ornaments (準U22賞)

会期

7月21日(月・祝)～9月15日(月・祝)
※会期中無休

観覧料

一般＝1,000円、高校・大学生＝800円、
中学生以下＝無料

会期中のイベント

■ギャラリートーク

期 日 7月27日(日)
時 間 午後2時
講 師 祝迫正豊氏(鹿児島県美術協会会長)

■アート講評セッション

一藝大の高畠依子先生と語る、深める、作品講評会—
期 日 8月17日(日)
時 間 午後2時～4時(予定)
講 師 高畠依子氏(本展審査員)
対 象 鹿児島県内の高校(美術科・美術部)に所属する生徒25名

■枕崎アート散策

国芸展&枕崎の食&青空美術館
期 日 8月10日(日)、31日(日)
申込み 各日1週間前までにお申込みください。
時 間 午前10時～午後3時(予定)
集 合 南浜館(発着)※マイクロバスで移動します。
参加料 3,000円(食事代、観覧料、保険料込み)
※今後の詳細は、枕崎国際芸術賞展特設ホームページなどでお知らせします。

■問合せ・申込み 南浜館 TEL72-9998



観覧チケット前売り情報

●価 格 一般 800円
高校・大学生 600円
※中学生以下無料(団体割引等あり)
●販売場所 <市内>南浜館、市役所売店、市民会館
<県内>高木画荘
チケットぴあ(Pコード687-239)

